

たかあき  
**かつまた 孝明** です！



昭和51年4月7日生まれ（36歳）  
出身 沼津市  
住所 沼津市花園町  
家族 父親（沼津市出身）  
母親（伊豆市出身：修善寺）  
妻・長男・長女・次男

**経 歴**

〔学歴〕

しょうえい幼稚園  
沼津市立門池小・門池中 卒業  
静岡県立沼津東高校 卒業  
学習院大学経済学部 卒業  
慶應義塾大学大学院経営管理研究科 卒業  
（経営学修士：MBA取得）

〔職歴〕

平成12年4月 スルガ銀行株式会社入社  
財団法人企業経営研究所 研究員  
（地域経済産業分析）  
経営企画部 人事担当マネージャー  
平成22年12月 スルガ銀行株式会社退職  
平成23年1月～ 自民党衆議院静岡県第6選挙区支部 支部長  
平成24年12月～ 衆議院議員（一期目）

— お知らせ —



<http://ameblo.jp/t-katsumata>  
ブログはじめました！！元気に毎日更新中！

**いま、自民党が熱い！自民党員を大募集中！！**

自民党に入党して、党員として自民党としてかつまた孝明を支えてください！

**入党資格**

- ・ わが党の綱領、主義、政策等に賛同される方
- ・ 満18歳以上で日本国籍を有する方
- ・ 他の政党の党籍を持たない方

**党費**：一般党員 年額4,000円、家族党員 年額2,000円

**申し込み方法**

- ・ 自民党衆議院静岡県第6選挙区支部までご連絡ください。電話、eメール、直接お越し  
いただいても結構です。



# 通信

— 第 20 号 —

自民党衆議院静岡県第6選挙区支部

〒410-0065 沼津市花園町 11-5

電話：055 (922) 5526 FAX：055 (922) 5527

ブログ：<http://ameblo.jp/t-katsumata>

公式サイト：<http://www.t-katsumata.com>

eメール：[jimin@t-katsumata.com](mailto:jimin@t-katsumata.com)

静岡6区【沼津・伊東・熱海・下田・伊豆・伊豆の国（旧韭山・大仁）・賀茂郡・駿東郡（長泉・清水）】

ボランティア大募集（6区支部まで連絡下さい）

まるかつ通信の企画・配布・街頭演説サポート・ポスター貼りなどなど、楽しい仲間と共に！

衆議院議員（静岡県第6選挙区支部支部長）

たかあき

# かつまた 孝明氏

## の「原点に立ち返る」

～新たなる第一歩～



初心忘れるべからず、気持ちを新たに！

## 「かつまた孝明」の政策の原点！！

去る12月26日に特別国会が召集されました。第46回総選挙で国民の負託を得た自民党・公明党の325議席。過去2年間、私が主張し続けた原点に立ち返り、これから国民の為の政治を国会の場で、汗を流して皆様と共に働いて参ります。

### 国家ビジョン

なによりもの国家ビジョンは「自立した国家」。  
その基礎には、自立した個人、自立した社会があります。  
国家に依存せず、働いた人の汗が報われる社会。外国に依存せず、自国で独立を守れる国家を目指します。

### 経済・金融政策

金融緩和と財政出動が二本柱。  
思い切った財政出動と金融緩和を両輪で進めることにより、実需を作り出し、雇用を拡大します。また会計ビッグバンの負の遺産である利益至上主義から、日本企業が輝きを取り戻すため、企業が長期的視点から人事評価をする「企業は人なり」の原点に立ち戻ります。

### 社会保障政策

日本の本来の姿は勤勉な国。  
安易に国に頼る「公助」優先から、「自助・共助・公助」をバランスよく組み立てます。毎年増加する国民負担をできるだけ緩和。社会保障制度の主たる負担世代である、

働き世代の方々が働く意欲を持ち続けられるよう、費用負担が特定の世代に偏らない制度設計をします。

### 外交・安全保障政策

自分の国は自分で守るという覚悟が求められています。基本路線は自主防衛の推進と日米同盟の発展。尖閣問題も、まずは日本独力の海上保安能力の強化が必要です。そして、政府解釈ではなく、しっかりと国民の熟議を経たうえで、我が国をとりまく脅威から国民を守る憲法への改正を目指します。

### 子育て・教育

待機児童への対策が重要課題。

保育園の充実はもとより、ライフワークバランスの推進による働き世代の育児時間を確保し、また様々な子育て家庭の環境にあった子育て支援を行います。そして何よりも、教育については、自分の国を誇りに持てる教育、そして生きていく力をつける教育を実施します。



歩き、聞き、学び、そして国会へ！

#### [かつまた孝明の一問一答]

先日、「(自民)党の方針と、勝俣議員の主張が違ったらどうしますか？」との質問をいただきました。

答えは、党の方針に従います。しかし、組織の方針に自分の主張が反映されるよう努力します。その為には、日ごろから地元を歩き、聞き、現状を知る。その裏付けがあってこそ、組織のなかで耳を傾けてもらえる説得力ができると信じています。

かつまた孝明に、これからも真っ直ぐなご意見をお聞かせください！